

週刊 タバコの正体

火のついたタバコのまわりにいる人は必ず“受動喫煙”をしてしまいます。そしてそのタバコの先でくすぶっている煙には、かなり有害な物質が含まれています。だから、人がいる所で喫煙をすべきではないのです。

ところで、そんな受動喫煙の危険性に関係なく「タバコのニオイはイヤ」だという人は案外大勢います。そんな人たちにとっては、タバコを吸っている人の姿は見えなくても、タバコのニオイがすると不愉快な思いをしてしまいます。そう言えば、どこで吸っているのかわからないのに、タバコのニオイがする事はよくあります。

煙やニオイは空気中に拡散すると、予想以上に広範囲に拡散します。風が吹く屋外では風向きによってかなり遠くまで臭う場合もあります。逆に閉ざされた室内では、瞬く間にニオイが充満し、狭い空間では煙で部屋が白く濁る場合もあります。

そして、タバコのニオイは吸い終わった喫煙者の衣服や髪の毛、それに吐く息にも残っているので、喫煙したばかりの人とすれ違ったり、エレベータなどの狭い空間で一緒にいるとイヤなニオイを感じるようになります。また、日常的に喫煙が行なわれている喫煙室などは、部屋中にタバコのニオイがしみついて、タバコを吸っている人がいなくてもニオイが立ち込め、そんな所にいると不愉快どころか頭が痛くなったり気分が悪くなってしまう事さえあるでしょう。

このように、タバコの煙はいろんな所にしみ込んでニオイが残ってしまいます。火の付いたタバコから出る煙を吸わされてしまう事を“受動喫煙”と呼ぶ事はすでに知ってもらいましたが、しみ込んだタバコのニオイをかかされるのも“受動喫煙”と同じようなものです。

じつは、喫煙が常習的に行なわれている部屋の壁、じゅうたん、カーテン、家具などにしみついたタバコのニオイをかかされるのは“残留受動喫煙”と呼ばれていて、煙は消えていてもニコチン濃度は高く健康被害の可能性があるそうです。ちなみに、喫煙者が吸い込むのが“能動喫煙”(ファーストハンドスモーク)、まわりの人がその煙を吸わされる事を“受動喫煙”(セカンドハンドスモーク)、そして、部屋などにしみついたニオイをかかされるのが“残留受動喫煙”(サードハンドスモーク)なのです。

タバコの煙は姿を変え、こんなに長期間にわたって人々の健康被害に影響するのです。だから、見た目はすぐに消えてしまう煙ですが、甘く見てはいけません。

産業デザイン科 奥田 恭久